

## IV 保 健 予 防 課

### 1 感染症対策

感染症法に基づく発生届の受理時や集団発生時に、積極的疫学調査や保健指導を実施し、感染症のまん延防止に努めました。また、管内の関係機関と連携し、感染症のまん延防止及び迅速かつ適切な対応がとれるよう、地域全体の感染症対策の推進を図ることを目的に対策連絡会議を開催しました。

蚊媒介感染症対策の一環として、蚊の生息調査を実施しました。

### 2 結核予防対策

感染症法に基づき、結核患者及びその家族等に対する保健指導を行うとともに、医療機関、薬局等と連携して、患者が治療を完遂できるよう服薬支援を実施しました。

また、患者家族等の接触者に対し、健康診断を実施し、結核の早期発見・まん延防止に努めました。

### 3 エイズ予防・性感染症予防対策

エイズ相談検査を実施するとともに、青少年を対象にエイズ・性感染症の正しい知識を普及するための講演会、パンフレットの配布等の予防啓発事業を実施しました。

また、秋のレッドリボン月間（世界エイズデー）に臨時エイズ検査を実施し、小田原合同庁舎1階において、エイズ予防啓発パンフレットの掲示、予防啓発グッズの配架・配布しました。

### 4 難病対策

難病患者への医療援護事務を行うとともに、難病対策地域協議会を開催しました。また、難病患者地域支援ネットワーク事業として、在宅療養者支援計画策定・評価事業、講演会、つどい、訪問相談事業等を実施しました。

医療依存度の高い神経難病等患者及び介護者の療養支援を目的とする在宅難病患者緊急一時入院の利用にあたって、申請受付を行うとともに療養相談を行いました。

また、地域の人材育成として、在宅難病患者保健福祉従事者等研修を実施しました。

### 5 肝疾患対策

ウイルス性肝炎の早期発見と二次感染予防のため検査を実施しました。

また、B型ウイルス性肝炎に対して行われるインターフェロン治療及び核酸アナログ製剤治療やC型ウイルス性肝炎の根治を目的としたインターフェロン治療及びインターフェロンフリー治療の実施に対する医療援護事務を行いました。

### 6 原爆被爆者援護

原爆被爆者及び被爆者のこどもを対象に、健康手帳等の申請等に係わる経由事務及び健康診断を実施しました。

### 7 骨髄ドナー登録

白血病等の血液難病患者にとって有効な治療法である骨髄移植を推進するため、登録受付を行いました。

### 8 認知症疾患対策

認知症疾患相談事業として、専門医・保健師等による相談・訪問指導を実施し、適切な診断・治療を受けるための指導、療養生活支援、家族に対する保健指導を行いました。また、若年性認知症対策として若年性認知症シンポジウム、家族交流会を開催しました。

## 9 精神保健福祉対策

精神疾患の早期発見・早期治療を図るため、専門医・福祉職・保健師による相談・訪問を行いました。管内居住の全措置入院者に対して、入院中から関わり、安心して退院後も地域で生活を送れるように支援しました。また、関係機関や団体との連携を図るため、会議を開催するとともに関係団体への支援を実施しました。

自殺防止対策として関係機関との連絡会議及びゲートキーパー養成講座を実施しました。神奈川県の子自殺対策事業の街頭キャンペーンや講演会に協力をし、自殺対策包括相談会を共催しました。

また、長期入院患者の地域移行・地域定着支援を進めるため、精神保健福祉センターの「地域につなげようプロジェクト」を地域精神保健福祉業務連絡協議会の部会として継続して個別支援を行っています。

# 1 感染症対策

## (1) 感染症発生状況

	発生件数	患者数	無症状病原体保有者数	接触者検便延数	備考
総数					
1類感染症					
2類感染症					
3類感染症	7	3	4	24	腸管出血性大腸菌感染症 7
4類感染症	4	4			レジオネラ症 4
5類感染症	51	49	2		アメーバ赤痢 1 ウイルス性肝炎（A型及びE型を除く）2 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 水痘（入院例に限る） 1 梅毒 7 百日咳 27 風しん 4 侵襲性肺炎球菌感染症 1

※ 2類感染症は結核を除く数

※ 5類感染症は全数把握のみ

## (2) 通報等に伴う調査

	通報件数	調査者数	患者・保菌者数	行政検便延件数
総数	7	7		
検疫所からの通報				
県域外等からの通報	7	7		

## (3) 集団かぜによる学級閉鎖・学年閉鎖状況

	平成30年度			平成29年度		
	施設数(実)	施設数(延)	欠席者数	施設数(実)	施設数(延)	欠席者数
総数	16	21	195	19	34	331
幼稚園	1	1	12	2	2	20
小学校	13	16	166	13	26	262
中学校						
高等学校	1	1	10	3	5	48
特別支援学校	1	3	3	1	1	1

(4) 社会福祉施設等における感染症報告に伴う報告・相談状況

疾患名	施設種別	件数
インフルエンザ	高齢者施設	12
	障害者施設	1
	児童関係施設	3
感染性胃腸炎		1
計		17

(5) 感染症対策連絡会議

開催日	内容	参加者
H31. 2. 8	① 管内の感染症発生動向について ② 麻しん・風しんについて ③ 季節性インフルエンザについて ④ 蚊媒介感染症・蚊の生息調査について ⑤ 連絡網について	16名 小田原医師会 小田原市立病院 市町消防本部 市町保健担当課 当所

(6) 蚊の生息調査 (於：小田原市上府中公園 方法：CO2 トラップによる調査)

	H30. 6. 22 ～23	H30. 7. 20 ～21	H30. 8. 24 ～25	H30. 9. 21 ～22	H30. 10. 19 ～20	総計
総計	60	45	20	107	82	314
遊歩道休憩所	28	21	13	32	29	123
野球場東	32	24	7	75	53	191
(再掲)遊歩道休憩所	28	21	13	32	29	123
ヒトスジシマカ(雌)	7	12	7	4	6	36
アカイエカ群(雌)	21	5	6	27	22	81
その他		4		1	1	6
(再掲)野球場東	32	24	7	75	53	191
ヒトスジシマカ(雌)	1	5	4	3	2	15
アカイエカ群(雌)	31	7	3	72	49	162
その他		12			2	14

ウイルス検査は、全て不検出  
 デングウイルス・ジカウイルス・日本脳炎ウイルス  
 ウエストナイルウイルス・チクングニアウイルス

## (7) 感染症研修会

開催日	対象	テーマ	講師	会場	参加者数
H30. 7. 13 30. 7. 17 30. 7. 18	当所職員	防護服の着脱訓練	当所 保健師	小田原保健 福祉事務所	25
H30. 10. 5	大学医学生	感染症について	当所 保健師	小田原保健 福祉事務所	24
H30. 10. 11	介護保険事業所、 保育園・幼稚園・認 定こども園の職員	施設における感染症対策 について ～普段の予防と拡大防止 のために～	当所 医師 保健師	小田原 合同庁舎	44
H30. 11. 19	小田原県税事務所 衛生委員会	感染症について	当所 保健師	小田原 合同庁舎	8
H31. 1. 23	小田原県税事務所 衛生委員会	風しん非常事態宣言	当所 保健師	小田原 合同庁舎	8
H31. 3. 27	当所職員	県西地域感染症ネットワー クに関する所内研修会	当所 医師	小田原保健 福祉事務所	24

## (8) 個別保健指導

方法	訪問	面接	電話	文書・メール	計
件数	38		328		366

## (9) 手洗いチェッカーの貸出

事業所区分	介護保険事業所	その他
件数	5	4

## 2 結核予防対策

### (1) 感染症診査協議会結核部会

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく入院勧告の診査等のため、定例的（第2・4水曜日）に開催するとともに必要に応じ臨時開催しました。

#### ア 開催状況

	定例開催	臨時開催	計
開催回数	24	13	37

#### イ 診査の状況

区分	診査件数	入院勧告	入院延長	就業制限	公費負担承認	公費負担不承認	公費負担保留
法第20条	60	19	41				
法第18条 *	0						
法第37条の2	117				116		1

\*診査分その他、報告13件あり。

### (2) 結核患者の状況

#### ア 登録患者数

(ア) 受療別・市町別登録患者数

(平成30年12月31日現在)

		総数	活動性結核				不活動性結核	活動性不明	潜在性結核感染症(別掲)
			肺結核活動性			肺外結核活動性			
			登録時喀痰塗抹陽性	登録時その他の結核菌陽性	登録時菌陰性その他				
総数		84	5	7	4	7	33	28	33
受療別	入院	7	5	1		1			
	在宅医療	16		6	4	6			14
	経過観察	60					33	27	17
	不明	1						1	2
市町別	小田原市	61	4	5	4	6	23	19	28
	箱根町	6				1	2	3	2
	真鶴町	3					3		2
	湯河原町	14	1	2			5	6	1

## (イ) 年齢階級別登録患者数

(平成30年12月31日現在)

	総数	活動性結核				肺外結核活動性	不活動性結核	活動性不明	潜在性結核感染症(別掲)
		肺結核活動性			登録時菌陰性その他				
		登録時喀痰塗抹陽性	登録時その他の結核菌陽性	登録時菌陰性その他					
総数	84	5	7	4	7	33	28	33	
0～4歳	0								
5～9歳	0								
10～14歳	0								
15～19歳	0								
20～29歳	6		1	1		1	3	3	
30～39歳	5	1			1		3	2	
40～49歳	8		1	1		5	1	4	
50～59歳	7		1		1	1	4	8	
60～69歳	8		1			5	2	6	
70歳以上	50	4	3	2	5	21	15	10	

## (ウ) 新登録患者数

(平成30年1月1日～12月31日)

	総数	活動性結核				肺外結核活動性	潜在性結核感染症(別掲)
		肺結核活動性			登録時菌陰性その他		
		登録時喀痰塗抹陽性	登録時その他の結核菌陽性	登録時菌陰性その他			
総数	33	12	7	5	9	21	
0～4歳	0						
5～9歳	0						
10～14歳	0						
15～19歳	0						
20～29歳	3	1	1	1		3	
30～39歳	2	1			1	1	
40～49歳	2		1	1		4	
50～59歳	2		1		1	2	
60～69歳	1		1			3	
70歳以上	23	10	3	3	7	8	

(エ) 結核患者登録率の推移（人口10万対）

	神奈川県		管内	
	登録数	登録率	登録数	登録率
平成26年	3,556	39.1	97	40.2
平成27年	3,426	37.5	72	30.2
平成28年	3,213	35.1	79	33.4
平成29年	3,028	33.1	77	32.7
平成30年	—	—	83	35.6

(オ) 結核り患率の推移（人口10万対）

	神奈川県		管内	
	新登録数	り患率	新登録数	り患率
平成26年	1,329	14.6	42	17.4
平成27年	1,311	14.4	24	10.1
平成28年	1,192	13.0	40	16.9
平成29年	1,143	12.5	27	11.5
平成30年	—	—	32	13.7

(カ) 結核有病率（人口10万対）

	神奈川県		管内	
	活動性結核	有病率	活動性結核	有病率
平成26年	937	10.3	33	13.7
平成27年	922	10.1	17	7.1
平成28年	785	8.6	30	12.7
平成29年	734	8.0	14	6.0
平成30年	—	—	22	9.4



(3) 健康診断

結核感染の早期発見を目的として、接触者健診を行いました。

また、結核患者登録票を基に、必要な者に対し管理検診を実施しました。

		実人数	QFT 検査 (延べ)		エックス線直接撮影 (延べ)		ツベルクリン反応 (延べ)		結果		
			当所	医療機関	当所	医療機関	当所	医療機関	患者発見	潜在性結核感染症	要経過観察
接触者健診	家族	30	59	4				1	3	7	2
	その他	111	199	4		2			1	11	2
管理検診		1				1					

(4) 保健指導

ア 実施状況

適切な医療の確保、医療中断の防止、患者の内服支援、家族・接触者に対する感染予防、発病予防等の保健指導を実施しました。

訪問		所内指導 (延べ)			
実人数	延べ人数	電話	面接	文書	計
50	160	1,857	56	63	1,976

イ 保健所DOTS実施状況 (対象 59名)

	訪問	面接	電話	薬局
実人数	28	34	13	5
延べ人数	107	108	35	19

※電話での内服確認は、他疾患入院中等の患者に対して実施しました。

ウ 薬局DOTS実施状況

公益社団法人小田原薬剤師会と協力し、薬局において患者の内服支援を実施しました。

(ア) 登録薬局数

	平成30年度	平成29年度
登録薬局数	39	38

(イ) 薬局DOTS実施者数

	平成30年	平成29年度
実施者数	11	8

(5) 研修

ア 結核医療従事者研修

開催日	内容	講師	会場	参加者数
H30. 11. 6	高齢者を中心とした結核の早期発見と治療	神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器内科医長 関根 朗雅氏	小田原 合同庁舎	46

イ 施設等での普及啓発活動

対象	内容	講師	回数	参加者数
県民	ポスター等による 結核の知識、情報提供	当所保健師	1	—
塗抹陽性患者が発生した介護施設職員	講話等による 結核の知識、情報提供	当所医師・保健師	1	13
介護施設職員	パンフレット等による 結核の知識、情報提供	当所保健師	54	—

### 3 エイズ予防・性感染症予防対策

#### (1) エイズ相談・検査

##### ア エイズ相談・検査実施状況

医師・保健師による随時相談、検査は月1回水曜日に匿名、予約制で実施しました。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
相談件数	428	392	442	323	329	255	160	172	221
検査実施数	128	108	115	80	83	69	52	56	101

##### イ エイズ検査（性・年齢別）実施状況

	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60歳以上	合計
総数	7	42	23	16	6	7	101
男	4	24	15	14	6	6	69
女	3	18	8	2		1	32

#### (2) エイズ予防啓発事業

開催日	内 容	会 場	参加者数
H30. 4. 19	看護学生へ 予防啓発パンフレットの配布	小田原合同庁舎	50
H30. 7. 6	地域職域協議会構成委員への エイズ検査のちらしを配布	小田原合同庁舎	27
H30. 9. 7	看護学生へ 予防啓発パンフレットの配布	小田原合同庁舎	55
H30. 11. 15	保健福祉課の禁煙指導講演会にて 予防啓発パンフレットの配布	小田原城北工業高校	240
H30. 11. 26	看護学生へ 予防啓発パンフレットの配布	積善会看護専門学校	35
H30. 11. 19～12. 14 (秋のレッドリボン月間、 世界エイズデー)	予防啓発パンフレットの配架	小田原合同庁舎	110

## 4 難病対策

### (1) 特定医療費（指定難病）医療受給者証交付件数

平成26年12月31日までは56疾患の難病に対して助成を実施していましたが、平成27年1月1日より「難病の患者に対する医療等に関する法律」が施行され、現在331疾患が指定されています。

指定難病医療受給者証交付件数（平成31年3月31日現在）※管内に患者がいる疾患のみ掲載

告示番号	指定難病名	小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	計	告示番号	指定難病名	小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	計
1	球脊髄性筋萎縮症	2	1		2	5	66	IgA腎症	15	2	3	2	22
2	筋萎縮性側索硬化症	22	1		1	24	67	多発性嚢胞腎	14	2	1	2	19
3	脊髄性筋萎縮症	2	1		1	4	68	黄色靱帯骨化症	3	2		2	7
4	原発性側索硬化症		1			1	69	後縦靱帯骨化症	46	3	1	5	55
5	進行性核上性麻痺	4				4	70	広範脊柱管狭窄症	1			3	4
6	パーキンソン病	194	17	7	42	260	71	特発性大腿骨頭壊死症	35	6	2		43
7	大脳皮質基底核変性症	4		1	1	6	72	下垂体性ADH分泌異常症	3			1	4
8	ハンチントン病				1	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2				2
11	重症筋無力症	26	2		5	33	75	クッシング症	1				1
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	27	2	2	7	38	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	3	1	1	1	6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	6		1	2	9	78	下垂体性前葉機能低下症	15	1		2	18
15	封入体筋炎	1				1	83	アジソン病	2				2
16	クロウ・深瀬症候群	1				1	84	サルコイドーシス	8		2	2	12
17	多系統萎縮症	15		1	2	18	85	特発性間質性肺炎	21	1	2	2	26
18	脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く）	40	5	2	6	53	86	肺動脈性肺高血圧症	5			1	6
19	ライソゾーム病	3	1			4	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5				5
21	ミトコンドリア病	4			1	5	89	リンパ脈管筋腫症	1				1
22	もやもや病	20	2		2	24	90	網膜色素変性症	44	2	1	5	52
23	プリオン病	1				1	93	原発性胆汁性胆管炎	13	2	1	3	19
26	HTLV-1関連脊髄症	1				1	94	原発性硬化性胆管炎	1				1
28	全身性アミロイドーシス	4				4	95	自己免疫性肝炎	3				3
34	神経線維腫症	5				5	96	クローン病	82	3	1	7	93
35	天疱瘡	4			1	5	97	潰瘍性大腸炎	177	11	4	21	213
37	膿疱性乾癬（汎発型）	2				2	107	若年性特発性関節炎		1			1
40	高安動脈炎	5				5	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1				1
41	巨細胞性動脈炎	1				1	113	筋ジストロフィー	15	3			18
42	結節性多発動脈炎	2	1	1		4	117	脊髄空洞症	1				1
43	顕微鏡的多発血管炎	11	2	2		15	118	脊髄髄膜瘤	1				1
44	多発血管炎性肉芽腫症	6				6	148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1				1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	5				5	160	先天性魚鱗癬		2			2
46	悪性関節リウマチ	5			1	6	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む）	1			1	2
47	バージャー病	1			1	2	220	急速進行性糸球体腎炎	1			1	2
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2				2	221	抗糸球体基底膜腎炎				1	1
49	全身性エリテマトーデス	99	5	4	6	114	222	一次性ネフローゼ症候群	7		1	2	10
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	38	3	2	2	45	224	紫斑病性腎炎			1		1
51	全身性強皮症	36	2		8	46	225	先天性腎性尿崩症				1	1
52	混合性結合組織病	10		3		13	257	肝型糖原病	1				1
53	シェーグレン症候群	7		1	2	10	271	強直性脊椎炎	6	1		1	8
54	成人スチル病	3	1			4	283	後天性赤芽球癆	1				1
56	ベーチェット病	17	2	2	5	26	296	胆道閉鎖症	1				1
57	特発性拡張型心筋症	30	1	2	1	34	298	遺伝性膝炎				1	1
58	肥大型心筋症		1			1	300	IgG4関連疾患	1	1			2
60	再生不良性貧血	9		1		10	306	好酸球性副鼻腔炎	7				7
63	特発性血小板減少性紫斑病	19	3	2	1	25							
65	原発性免疫不全症候群	1				1							
								総計	1,240	98	55	168	1,561

(2) 難病対策地域協議会

関係機関が相互の連絡を図ることにより、地域における難病患者への支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制整備について協議するために、足柄上センターと協議会及び部会を開催しました。

開催日	内 容	出席者数
H30. 6. 20 (部会)	① 避難行動要支援者名簿について ② 避難所別難病患者の状況について ③ 今年度の取組み内容について	9
H30. 11. 29 (部会)	① モデルケースの個別計画作成状況 ② 個別計画作成の取組みから見えた課題及び改善点 ③ 関係機関との状況を共有する仕組みの検討	13
H31. 2. 18 (協議会)	① H30年度の取組み状況 ② 平時からの情報共有 ③ H31年度以降の取組みについて	29

(3) 難病患者地域支援ネットワーク事業

難病患者及びその家族を対象に、療養上の不安の解消を図るため、保健、医療及び福祉に関するつどい、相談指導等を実施するとともに、関係機関との連携のもと適切な在宅療養支援の検討を行いました。

ア 在宅療養支援計画策定・評価事業

在宅療養支援計画策定・評価委員会

難病患者への保健福祉事業が円滑かつ効果的に行われるために、難病患者とその家族を取り巻く状況や課題等を把握・検討しました。

- ・医療機器装着神経難病患者への支援計画の検討 (1名)

イ 難病講演会

開催日	テ ー マ	講 師	会 場	参加人数
H30. 10. 25	網膜色素変性症 ～最新治療と生活の工夫～	国際医療福祉大学熱海 病院 眼科 医師 高野 雅彦 氏	小田原合同庁舎	41

ウ 難病患者と家族のつどい(対象 全疾患)

開催日	内 容	講 師	会 場	参加人数
H30. 4. 17	歌・創作活動・情報交換・ 体操・アロマテラピー・災 害時対策、交流会他	① 運動指導員 橋高 靖子 氏 ② 歌指導者 山崎 静子 氏 岩本 月恵 氏 ③ アロマテラピー講師 矢崎 麻純 氏	小田原保健 福祉事務所	6
H30. 6. 19				7
H30. 9. 18				5
H30.10. 16				8
H30.12. 18				6
H31. 2. 19				5
H31. 3. 19				5

エ リハビリ教室 (対象 パーキンソン病関連疾患)

開催日	内 容	講 師	会 場	参加人数
H30. 9. 29	座位・臥位・ 立位の体操	①社会福祉法人神奈川総合リハビリテー ション事業団 地域リハビリテーション支援センター 小泉 千秋 氏 (理学療法士) ②神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション部 有馬 一伸 氏 (理学療法士)	小田原保健 福祉事務所	21
H30.10. 17				12

オ 訪問相談事業

訪問相談員(保健師、看護師)が、患者・家族の療養上の悩み等に対して支援を行いました。

実施回数	訪問		面接		電話	
	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
16	6	9	20	36	14	14

カ 保健師による家庭訪問・所内指導

家庭訪問

	神 経 系	膠 原 病	消化器系	血 液 系	免疫系	総 数
実人数	10					10
延人数	31					31

随時相談

面 接	電 話	そ の 他	総 数	主 な 相 談 内 容 (延べ)					
				申 請	医 療	看 護	福 祉	そ の 他	計
33	396	34	463	18	34	15	79	317	463

(4) 難病特別対策推進事業

ア 在宅神経難病患者緊急一時入院（平成17年4月より開始）

2次医療圏に1床、県域で8床、管内は箱根病院、足柄上病院に1床ずつ確保されています。医療依存度の高い神経難病患者等の介護者のレスパイトや介護困難時の一時入院受け入れに伴う申請受付と療養相談を行いました。

〈利用者の状況〉 回数 9件（実人数 5名） 申請数 9件

イ 在宅難病患者保健福祉従事者等研修会

地域で難病患者に関わっている支援者（ケアマネジャー、介護ヘルパー、サービス提供責任者、訪問看護師、地域包括支援センター職員、行政保健師等）を対象に、個別事例や地域での支援課題をテーマにスキルアップを目的に実施しました。

開催日	テーマ	講師	会場	参加人数
H30. 6. 21	難病患者支援のためのこころのコミュニケーション技法	①小田原保健福祉事務所 保健予防課 青木 優一 医師 ②特定非営利活動法人 ICT救助隊 理事長 今井 啓二 氏 理事 仁科 恵美子 氏 ③尊厳生☆応援団 代表 増田 潤 氏 増田 光子 氏	小田原合同庁舎	35

5 肝疾患対策

肝疾患医療給付申請者に対し申請事務を行うとともに、定例相談、検査を実施しました。

(1) ウイルス性肝炎相談及びC型肝炎・B型肝炎ウイルス検査実施状況

定例相談				受診券発行
実施回数	検査人数	検査内容		
		HCV抗体	HBs抗原	
1	1	1	1	0

(2) 肝炎治療医療費助成制度

平成20年4月からインターフェロン治療に対する医療費助成制度が開始され、B型肝炎の治療として平成22年4月から核酸アナログ製剤治療が助成の対象となりました。また、C型肝炎の治療として平成24年1月からインターフェロン及び内服薬による3剤併用療法が、更に平成26年9月からインターフェロンフリー治療が医療費助成の対象となりました。

区分	申請者数	
インターフェロン治療	0	
核酸アナログ製剤治療	新規	10
	更新	91
インターフェロンフリー治療	45	
3剤併用療法	0	

## 6 原爆被爆者援護

### (1) 原爆被爆者健康管理事業

#### ア 被爆者健康手帳等交付状況

	H31.3月末現在 手帳保有者	新規申請
総 数	124	0
被 爆 者 健 康 手 帳	53	
第1種健康診断受診者証		
第2種健康診断受診者証		
被爆者のこども受診者証	71	

#### イ 被爆者健康診断実施状況

	受診者				要精検者	要治療	
	総 数	被爆者	第1・2種	被爆者の こども			
平成29年度	11	6	0	5	8	0	
平成30年度	総 数	10	7	0	3	7	0
	第1回 5月	6	6			5	
	第2回 11月	4	1		3	2	

## 7 骨髄ドナー登録

白血病、重症再生不良性貧血等の患者にとって有効な治療法である骨髄移植を推進するため、骨髄移植推進財団を中心に骨髄バンク事業が実施されていますが、平成7年度から骨髄提供希望者のより一層の確保を図るため、県域では、小田原保健福祉事務所、厚木保健福祉事務所大和センターの2か所が登録受付業務を実施しています。

### (1) 小田原保健福祉事務所登録受付の状況

	28年度	29年度	30年度
総 数	4	1	2
男			1
女	4	1	1

### (参考) 骨髄バンクの状況

	全 国	神奈川県
提供希望者（ドナー）登録者数	512,775	23,301
移植希望者登録者数	2,160	73
骨髄移植例数（累計）	23,107	1,220

※骨髄移植推進財団日本骨髄バンク 骨髄バンクデータ集資料より 平成31年4月末日現在



## 8 認知症疾患対策

### (1) 認知症疾患相談事業

認知症疾患対策、相談事業、訪問指導事業、処遇困難事例の検討会や研修会、健康教育、徘徊高齢者SOSネットワークシステム等の事業を実施しました。

#### ア 定例相談

本人、家族、地域包括支援センター職員等からの相談に専門医、保健師が応じています。

相談 件数 (実数)	相談 件数 (延べ数)	相談の方法(延べ数)			相談内容(延べ数)				
		訪問	面接	その他	疾 病 一 般	問 題 行 動	治 療	入 院	看 護 介 護
13	13	10	3	0	13	9	13	0	0
					介 護 者 の 問 題	介 護 保 険 サ ー ビ ス	そ の 他 の 制 度	介 護 者 の 支 援	そ の 他
					3	6	2	4	1

#### イ 随時相談

相談 件数 (実数)	相談 件数 (延べ数)	相談の方法(延べ数)			相談内容(延べ数)				
		電話	面接	その他	疾 病 一 般	問 題 行 動	治 療	入 院	看 護 介 護
54	123	99	11	0	30	32	51	4	7
					介 護 者 の 問 題	介 護 保 険 サ ー ビ ス	そ の 他 の 制 度	介 護 者 の 支 援	そ の 他
					1	11	0	18	35

### (2) 認知症疾患訪問指導

	訪 問 数						年 齢 別 (実数)					
	男		女		総数		60歳 未満	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	総数
	実数	延べ数	実数	延べ数	実数	延べ数						
件数	8	8	10	10	18	18	1	2	6	7	2	18

### (3) 処遇困難事例検討事業

一般住民や、地域で認知症患者に関わっている支援者が開催する事例検討会に参加しました

#### ア 処遇困難事例検討

開催日	出席者	会場	参加者
H30.7.10	地域包括支援センター、市高齢介護課、主任相談員、民生委員、当所職員	地域包括支援センター はくさん相談室	8

イ 認知症患者家族の交流会（おだわら家族会）

認知症の方を介護する家族、認知症サポーターや介護ボランティア、関係職員を対象に、小田原市と共催で家族交流会を実施しました。

開催日	内 容	参加者数
H30. 4. 20	交流会	21
H30. 5. 18	交流会	15
H30. 6. 15	交流会	17
H30. 7. 20	医師を囲んでの交流会 講師 ひまわりメンタルクリニック院長 小林 博子 氏	15
H30. 8. 17	交流会	15
H30. 9. 21	交流会	22
H30. 10. 19	交流会	18
H30. 11. 16	交流会	16
H30. 12. 21	交流会	18
H31. 1. 18	交流会	17
H31. 2. 15	交流会	18
H31. 3. 15	交流会	15

エ 認知症患者家族の交流会（ゆがわら・まなづる家族会）

真鶴町・湯河原町で開催した、認知症患者家族の交流会へ支援を行いました。

開催日	内 容	参加者数
H30. 5. 11	交流、情報交換会	14
H30. 7. 13	交流、情報交換会	6
H30. 9. 14	交流、情報交換会	6
H30. 11. 9	交流、情報交換会	10
H31. 1. 11	交流、情報交換会	9
H31. 3. 8	交流、情報交換会	7

オ 関係機関との連携

(ア) 小田原市初期集中支援事業チーム員会議との連携

回数	6回
検討件数 (相談含む)	29件

(イ) 認知症をにんちしよう会との連携

保健・医療・福祉の関係団体及び行政で構成された「認知症をにんちしよう会」に構成機関として参画し、活動しました。

開催日	内 容	会 場	参加者
H30. 4. 26	第1回 認知症をにんちしよう会実行委員会	川東タウンセンター マロニエ集会室201	
H30. 5. 20	認知症をにんちしよう会 「認知症シンポジウム」	川東タウンセンター マロニエホール	延 195
H30. 6. 25	第2回 認知症をにんちしよう会実行委員会	おだわら総合医療福 祉会館	
H30. 8. 9	第3回 認知症をにんちしよう会実行委員会	小田原市役所	
H30. 9. 9	認知症をにんちしよう会イベント2018	ハルネ小田原 うめまる広場	延 1,593
H31. 11. 19	第4回 認知症をにんちしよう会実行委員会	小田原市 生涯学習センター	
H31. 1. 29	第5回 認知症をにんちしよう会実行委員会	おだわら総合医療 福祉会館	

(4) 若年性認知症対策事業

若年性認知症について、一般住民への普及啓発のためのシンポジウムを開催しました。

また、地域で認知症患者に関わっている支援者を対象にした研修会（若年性認知症支援コーディネーター設置事業）も実施しています。

開催日	内 容	講 師	会 場	対 象	参加者数
H31. 3. 18	若年性認知症 シンポジウム 「“知ること”で できることがある」	ひまわりメンタルクリニック 院長 小林 博子 氏 若年性認知症支援 コーディネーター 田中 香枝 氏 しきさい館・R 峯尾 生恵 氏 若年性認知症患者を支え ているご家族	小田原 合同 庁舎	一般住民 患者家族 支援者 関係機関 職員等	58

(5) 介護予防・認知症予防支援事業

介護予防・認知症予防を目的に、コグニサイズの普及啓発を行いました。

回数	参加者
2回	101名

(6) 徘徊SOSネットワーク事業

徘徊する方の安全を守るため、事前登録、搜索保護の窓口を担う市町及び県庁と連絡調整を行いました。

ア 市町別徘徊SOSネットワーク事前登録状況

事前登録数	小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町
161 (54)	130 (31)	8 (4)	2 (2)	21 (17)

※( )内は、H30年度新規登録数

イ ネットワーク実施状況

搜索依頼件数	発見者数 (未発見者数)	保護件数	身元判明件数
2	2 (0)	0	0

ウ 徘徊SOSネットワーク担当者会議

開催日	内 容	出席者
H30. 11. 1	① 平成29年度 徘徊SOSネットワーク実績 ② 徘徊SOSネットワークの現状	15

(7) その他

ア 認知症疾患医療センターとの連携

認知症疾患医療センターである曾我病院との地域医療連携強化に努めました。

開催日	内 容
H30. 11. 9	認知症疾患医療センターの事業評価
H31. 2. 20	第1回 県西地区認知症疾患医療連携協議会

## 9 精神保健福祉対策

地域における精神保健及び精神障害者の福祉のニーズは年々高まる中で、当所では精神疾患の早期発見、早期治療、再発防止に努めるとともに、精神障害者の社会復帰のための援助を行いました。また、メンタルヘルスの推進を目的に普及啓発活動を行いました。

### (1) 会議

保健福祉事務所管内における関係機関・団体等の連携により行われる各種保健・福祉サービスの効果的かつ円滑な推進を図るため、関係機関で構成する会議を開催しました。

#### ア 地域精神保健福祉連絡協議会

開催日	構 成 員	内 容	出席者数
H31. 2. 6	精神科医療機関 社会復帰関係機関 家族会 相談支援事業者 市町担当課 市町社会福祉協議会 精神保健福祉センター 保健福祉事務所	① 地域精神保健福祉連絡協議会要領改正について ② 措置入院者等の退院支援について ③ 長期入院精神障害者にも対応した地域移行・地域定着支援の取組みについて ④ 平成30年度の主な取組みと今後の予定について ⑤ その他	19

#### イ 地域医療福祉連絡会

開催日	構 成 員	内 容	出席者数
H30. 6. 12	医療機関 相談支援事業所 市町職員 小田原児童相談所 生活保護担当職員 小田原警察署生活安全課 精神保健福祉センター	① 精神科救急及び精神保健福祉相談利用について ② 地域移行・地域定着支援の取組について ③ 情報交換 ④ その他	15

### (2) 精神保健福祉業務統計

精神保健福祉相談・訪問指導

#### ア 把握区分

	実人数	延べ人数
相 談	257 (204)	1, 553
訪 問	16 (12)	178

※ ( ) 内は、保健所把握新ケース (内数)

イ 相談性別・年齢

	性別			年齢								
	男	女	不明	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	不明
実人数	100	154	2	0	16	39	25	37	36	26	24	53
延人数	610	938	2	0	56	262	120	345	516	111	73	69

ウ 訪問性別・年齢

	性別			年齢								
	男	女	不明	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	不明
実人数	6	10	0	0	2	0	1	3	4	2	3	0
延人数	62	116	0	0	12	31	18	31	46	24	11	4

エ 相談・訪問契機

	実人数	市町村	医療機関	家族	本人	その他
相談	231	24	21	68	46	72
訪問	14		3			11

オ 相談種別

	実人数	治療の問題	生活上の問題	社会参加の問題	心の健康問題	その他
相談	256	120	78	10	21	38
訪問	25	4	19		1	1

カ 診断名

	実人数	統合失調症	気分(感情)障害	てんかん	器質性精神障害	中毒性精神障害		神経症	その他の精神障害	診断保留	精神障害と認めず	その他
						アルコール	覚せい剤・他					
相談	257	56	38		2	15	6	14	27		3	58
訪問	16	5	3				1		4		1	1

キ 相談者

	総数	本人	家族	医療機関	市町村	その他
相 談	1,586	604	293	274	162	253
訪 問	370	118	74	66	49	63

ク 担当者別相談回数

	総数	医師	福祉職	保健師	その他
相 談	1,594	35	1,522	31	6
訪 問	199	14	178		7

(3) 普及啓発  
精神保健福祉講演会

実施日	内 容	講 師	対 象	参加者数
H30.7.19	ともに生きる ～つっちーのショーガイ学習～	夢風舎 土屋 徹 氏	行政及び関係機関職員 一般県民	61

(4) 団体支援  
精神保健福祉関係団体への支援

	援 助 内 容	援助回数
精 神 障 害 者 家 族 会	総会に参加	1
断 酒 会 、 A A	酒害相談研修会に出席、会場手続き等	13
地域活動支援センターⅢ型支援	総会・地域ネットワーク会議参加	2

(5) 家族支援  
ア 精神障害者(主に統合失調症)の家族教室

実施日	内 容	講 師	対 象	参加者数
H30.7.19	実践!かかわり方 ～こんな時、どうする?～	夢風舎 土屋 徹 氏	統合失調症患者の家族	13

(6) 医療保護関係事務

ア 精神保健診察

精神保健福祉法に基づく一般からの申請(法22条)・警察官通報(法23条)に対し、精神保健福祉センター兼務職員として調査等を行いました。

	件数	指定医療診察結果				病院紹介	不実施	取下げ
		要措置	不要措置					
			入院	入院外	医療不要			
22条	0							
23条	47	18	5	6		15	3	

イ 精神科病院実地指導・実地審査(法38条の6)

(ア) 精神保健福祉法に基づく精神科病院に対する実地指導

精神科病院におけるより良い医療の提供と適正な管理運営に資するため、管内2病院に対し、実地に実態を把握し、必要な指導を行いました。

(イ) 精神保健福祉法に基づく実地審査(措置入院者等に対する精神保健指定医の診察)

施設数	審査結果					
	措置入院			医療保護入院		
	継続	移行	入院不要	継続	移行	入院不要
2	3			8		

ウ その他の医療保護事務

	延べ件数
入院届	418
応急入院届	1
退院届	440
定期病状報告	193
措置定期病状報告	5

(7) 自殺対策事業

管内関係機関職員(管内一市三町の自殺対策担当者、救急隊、医療機関、警察等)を対象に、自殺の実態について共通認識を図り、担当者会議と自殺対策計画策定のため、統計についての講義を開催しました。

ア 会議

実施日	内容	対象	参加者数
H30.7.23	① 各機関における自殺対策の取組み実績及び今後の取組みについて ② 自殺関連事業について	行政及び関係機関職員	17



イ 研修会

実施日	内 容	講 師	対 象	参加者数
H30. 7. 23	自殺対策計画策定・対策の進め方	東海大学医学部 渡辺 良久 客員准教授	行政及び関係機関職員	17

(8) その他

ア 職員向け研修

職員を対象に、障害の理解を深めて支援に役立ててもらおうよう研修を行いました。

実施日	内 容	講 師	対 象	参加者数
H31. 2. 22	パーソナリティ障害 ～障害の理解とかわり方	曾我病院 山口 隆之 副院長	県職員、市町職員	42

イ 地域移行、地域定着支援推進にむけた取組み

神奈川県精神保健福祉センターの平成28年度、29年度の調査研究（通称：地域につなげようプロジェクト）を継承し、地域移行に取り組みました。1年以上の長期入院者の実態調査を行い、ワーキングで個別支援に取り組み退院支援を行いました。

開催日	内 容
H30. 6. 12	第1回精神保健福祉連絡協議会地域移行部会
H30. 10. 3	第2回精神保健福祉連絡協議会地域移行部会
H30. 10. 15	精神保健福祉連絡協議会地域移行部会推進打合せ
H30. 11. 27	第1回ワーキング実施（曾我病院で開催）
H30. 12. 18	第3回精神保健福祉連絡協議会地域移行部会
H31. 1. 22	第2回ワーキング実施（曾我病院で開催）
H31. 3. 5	第3回ワーキング実施（曾我病院で開催）

ウ 小田原市箱根町真鶴町湯河原町地域障害者自立支援協議会 精神部会に参加

精神障害者の地域生活定着を支援するため、H30. 4小田原市箱根町真鶴町湯河原町地域障害者自立支援協議会精神部会が発足し、構成員として参加しました。第2回部会は支援者向けの研修を当所と共催で開催しました。

開催日	内 容
H30. 7. 12	第1回小田原市箱根町真鶴町湯河原町地域障害者自立支援協議会精神部会
H31. 3. 22	第3回小田原市箱根町真鶴町湯河原町地域障害者自立支援協議会精神部会

エ 研修会

実施日	内 容	講 師	対 象	参加者数
H30. 12. 26	精神障がいがあっても暮らしやすい地域づくりのために	相談支援センターくらふと 吉澤 浩一	関係機関支援者	34

オ 小田原市地域交流事業(ハートフェスタ)への協力

小田原市内の保健・医療・福祉の関係団体と行政から構成され、小田原市が事務局となっている小田原市地域交流事業に構成機関として参加しました。

開催日	内 容	会場
H30. 4. 19	第1回地域交流事業実行委員会に参加	小田原合同庁舎
H30. 5. 17	第2回地域交流事業実行委員会に参加	小田原合同庁舎
H30. 6. 21	第3回地域交流事業実行委員会に参加	小田原合同庁舎
H30. 7. 12	第4回地域交流事業実行委員会に参加	小田原合同庁舎
H30. 8. 9	第5回地域交流事業実行委員会に参加	小田原合同庁舎
H30. 8. 24	前日準備	ハルネ
H30. 8. 25	おだわらハートフェスタ in HaRuNe 開催	ハルネ
H30. 9. 20	第6回地域交流事業実行委員会に参加	小田原合同庁舎
H30. 10. 31	第7回地域交流事業実行委員会に参加	小田原合同庁舎